

「読売新聞」「朝日新聞」など大手5紙の昨年12月27日づけ朝刊に掲載された見開き2面の全面広告には驚きました。

フィリップ モリス ジャパン (PMJ) が出した「新型タバコ」の広告ですね。「たばこは、ながく上手に付き合いたい。そんなあなたへ。」たばこは、できるだけ距離を置きたい。そんなあなたへ。」とあったので、何の広告かにはわからなかった人もいたのではないのでしょうか。

「新型タバコって何ですか？」
PMJ、日本たばこ産業(JT)、プリティッシュ・アメリカン・タバコ(BAT)という世界の三大タバコメーカーが、日本で販売を始めた「非燃焼・電気加熱式タバコ(加熱式タバコ)」のことです(注1)。

3社の用具(本体)と製品(タバコ)はそれぞれ独自の工夫がされていますが、基本は同じです(表)。充電式電池を備えた用具に、葉タバコと添加物の成分から成る製品を挿入して加熱し、いぶり出されてくる「ニコチンを含む(煙ではない)湯気のようなもの」(注2)を吸いこんで、タバコの味を味わいます。

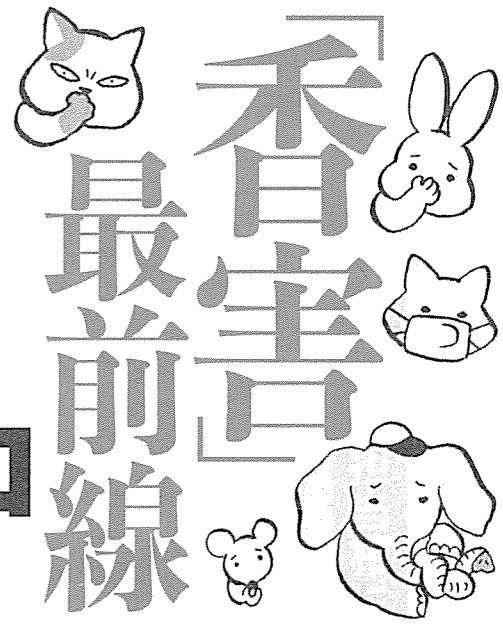
「よくわかりません。」
先行しているアイコスで説明しましょう。紙巻きタバコと似た形

吐き出された物質は部屋中に広がり、焦げたようなニオイが部屋中に広がりました。さらに空調を通して隣の部屋にも拡散し、仕事

中だった同僚が「先生、焦げ臭いんです。火事かもしれない」と飛び込んできたそうです(注7)。

以上の事実から大和教授は「屋内環境に悪影響を与え、周囲の人たちに不快な思いをさせるのは間違いない」とみています。

JTのブルームテックはニオイがしなと聞きますが、タクシー車内で吸われても、ニオイはしなかったと元運転手の井上順一さんは言っています(20ページ参照)。メンソール配合の銘柄を吸った場合、メントンにおいが漂う程度だそうです。



「香害」の最新線。筆者はその実態を発売中の『香害 そのニオイから身を守るには』にまとめたが、その後も問題は絶えない。「香害」の最新線でどんな問題が起きているか、不定期の連載で報告します。

※このシリーズは問答形式にしました

イラストレーション/伊藤ハムスター

新型タバコ

必要ですか?

戦略だと伝えられています。たしかに売れゆきは好調で、紙巻きと新型を合わせたタバコ販売に占めるアイコスのシェアは昨年末には7%に達したとか。この業界で新製品が短期間にこれだけシェアを拡大するのは前例がないそうです。

路上禁煙にしている自治体や室内禁煙にしている事務所・飲食店でも、加熱式タバコは対象外にしているところがあります(注3)。

販売急増の背景には、こうした事情もあるのでしょうか。

ほかの2社も追随し、JTは今年6月から東京で、来年には全国で展開する予定。昨年12月に仙台での販売をはじめたBATも、全国展開の準備を急いでいます。

「ところで加熱式タバコは安全なのですか? 煙が出ず、灰が出ず、タバコの煙のニオイもなく、屋内環境に悪影響を及ぼさないと、PMJ

は発表しています。国立保健医療科学院の櫻田尚樹(くわだ なおき)部長らがアイコスの主流煙(肺に吸入される煙)を測定したところ、ニコチン濃度はスティック1本(1立方メートル、相当り)0.77ミリグラム(mg)でした(注4)。

0.8mgのメビウス(マイルドセブン)などとほぼ同じで、0.7mgのメビウスライトよりは多量のニコチンを含んでいるわけです(だから愛煙者は満足する)。

葉タバコの燃焼で生じるタール(注5)はほとんど生成されませんから、アイコスは「低タール・高ニコチン」。即効性の非常に強い神経毒性をもち、依存症を発症させやすいニコチンはしっかり含まれています。

また櫻田部長らの測定では、アイコスの主流煙には紙巻きタバコと同じように、発がん性の強い「ベンゾピレン」や「ニトロソアミン類」「アルデヒド類」も含まれていました。

加熱式タバコには副流煙(火のついた先端から立ち上がる煙)はないでしょうが、呼出煙(喫煙者が吐き出した煙)に当たるものはあるはずですよ。

大和浩産業医科大学教授がアイコスについて「微小粒子状物質(PM2.5)」を測定したところ、

本当に安全ですか?

岡田 幹治

加熱式タバコは煙が出ないので、健康リスクが少なく、受動喫煙の危険もないと考える人が少なくないようですが、誤りですね。

その通り。加熱式タバコも紙巻きタバコと同じように、肺がん・脳卒中・心筋梗塞などの原因になる可能性があります。化学物質過敏症(CS)の発症・悪化の原因になります(注8)。

大和教授は「事務所や飲食店でも、住まいや車でも、閉鎖的な空間での使用は厳禁。吸うことが許されるのは、屋外の喫煙所だけにすべきだ」と主張しています。

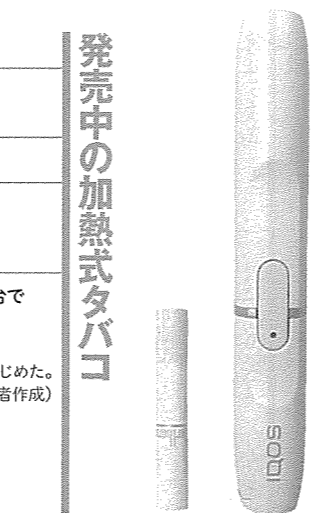
タバコはストレス解消に役立つので必要だと、多くの喫煙者は言っています。

喫煙によって解消するストレスは、体内のニコチン切れのストレスだけです。その他のストレスも解消されません。ニコチン依存は病気で、きちんとした治療を受けて治すことが肝心です。

会社名	PMJ	JT	BAT
商品名	iQOS (アイコス)	PloomTECH (ブルームテック)	glo (グロー)
用具	キット(9980円)	スターターキット(4000円)	キット(8000円)
製品	ヒートスティック マールポロ4銘柄 20本460円	カプセル メビウス3銘柄 20本460円	ネオスティック ケント3銘柄 20本420円
発売時期	14年12月=名古屋で 16年4月=全国で	16年3月=福岡で 17年6月=東京で	16年12月=仙台で

(注) PMJは17年3月、新型の用具(iQOS2.4 Plus)と2種の新銘柄を一部の店舗で販売しはじめた。価格は税込。(3社の発表をもとに筆者作成)

発売中の加熱式タバコ



ヒートスティック(左)をアイコスキット(右)に差し込んで吸う。1箱20本入り(下)。

JTは2月、今年の国内タバコ販売が前年より9.6%減って960億本になる見通しだと発表した。民営化された1985年には3000億本を超えていたが、健康志向や増税によるタバコ離れが進んで、ついに1000億本を割り込むことになった。

JTの経営も低迷し、2016年12月期の連結決算では売上高が4.9%減の2兆1432億円、最終利益は13.2%減の4216億円だった。

追い込まれたタバコ会社は新型タバコに活路を見出そうとしているが、この面でJTはPMJに大きく後れをとっている。PMJが昨年4月から全国展開しているのに対し、JTが全国での販売を始めるのは来年上半年期になる見通しだ。

このためJTは監督官庁の財務省と手を携えて、厚生労働省が検討中の「受動喫煙防止対策」の骨抜きをめざすなど、タバコ離れを止めるための活動を活発化させている。(岡田幹治)

(注1) 新型タバコには、ニコチンなどを含む液体を電気加熱し、気化した成分を吸う「電子タバコ」もある。日本では医薬品医療機器等法に抵触するため製造できないが、個人輸入され、販売もされている。

(注2) 湯気のようなものを「エアロゾル」と呼んでいて、科学的には「蒸気」ではなく「エアロゾル」(気体中の固体または液体の微粒子が分散し浮遊しているもの)である。

(注3) 路上喫煙禁止条例を定めている自治体のうち、東京都千代田区などは新型タバコを禁止対象にしているが、千葉市などは対象外にしており、現状では対象外にしている方が多い。

(注4) 櫻田尚樹ら「非燃焼・電気加熱式タバコから発生する化学物質の分析」(第75回日本公衆衛生学会総会抄録)。

(注5) タールは有機物を燃焼した際に生成される黒褐色の油のような液体(混合物)で、数多くの発がん物質を含んでいる。ニコチン・酸化炭素とともに、タバコの煙の三大有害物質とされている。

(注6) 環境省が定めた大気中のPM2.5の「暫定指標値」は「1日平均値70μg(1m相当り)」で、これを超すと予想される場合は「不要不急の外出などをできるだけ避けるよう」呼びかけられる。

(注7) 大和浩「新型タバコも屋内では使用してはならない」(世論時報)2017年3月号。

(注8) 職場の受動喫煙によってCSが発症・悪化し、休職や退職を強いられた事例は少なくない。